



同窓の活躍

関西学院大学理工学部同窓会会長 高井 明德

理工学部同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年6月に、ノーベル賞受賞の湯川秀樹博士等、そうそうたる歴代の受賞者を誇る日本の学術研究で特に優れた研究に授与される日本学士院賞を筑波大学教授の中井直正氏（1980年物理学科卒）が受賞されました。

また、昨年10月、国立医薬品食品衛生研究所変異遺伝部長の林真氏（1970年化学科卒）が、アメリカ環境変異原学会のアレキサンダー・ホランダール賞を受賞されました。同賞は日本人としては初の受賞で、同学会の他の賞を含めてがん研究で著名な杉村隆国立がんセンター名誉総長以来2人目のことです。

さらに、教員では、尾崎幸洋学部長が日本分析化学会賞を受賞されました。

ここに、心より御祝い申し上げます。

このような著名な賞の受賞は、同窓はもとより、教職員や在学生の皆さんにも誇りにできるものであると思います。また、優秀な学生の入学、理工学部の教育研究の発展にも繋がるものと思います。他にも、顕著なご活躍や受賞などの喜ばしいことも多々あるかと思っております。是非何かありましたら、ご報告いただければ幸甚です。

昨年は、学生の皆さんの参加を念頭に、先端分野で活躍の同窓（三村高志氏、山崎 洋氏）による公開学術講演会を三田キャンパスで開催し、多数のご参加をいただき、盛会にて終わることが出来ました。学生の皆さんにも学術的なインパクトを与え、同窓会賞並びに奨学金授与に加え、母校理工学部の教育充実に多少なりとも貢献出来たのではないかと考えております。

本年度の同窓会は、通常スタイルで開催しますが、恒例の講演会に、初めて女性の講師が登場します。国際教育の現場で活躍の大阪女学院大学准教授の前田美子さんです。是非ご期待下さい。

ここ数年同窓会費納入の大幅な減少で、本会の運営に支障がきたしはじめました。もちろん、会費を納入いただける魅力ある同窓会作りも進めてまいりましたが、一方では、運営の仕方、主に同窓会の案内や会報の配布について、新たなシステムを考える必要が出てきました。次年度へ向けて、改善策を提案させていただきたく思っております。

今後とも、皆様のご支援ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

理工学部の現状報告

関西学院大学理工学部長 尾崎 幸洋

最近の理工学部の最も重要な話題といえば、やはり来春から6学科460名の体制になることでしょうか。新しい学科として数理科学科と人間システム工学科が新設されます。

数理科学科は、現在物理学科に設けられている数学専攻を独立させるものです。幅広い分野と連携し、数学を理論と応用の両面から探求します。数学コースと応用数理コースが設けられます。大学院には数理科学専攻が設置されます。人間システム工学科は、人間の特性や感性を理解し、人とシステムとの関係を創造します。映像音響システムコースとサイバーロボティクスコースが設けられます。生命科学科には生命医化学専攻が設置されます。生命医化学専攻では医学・薬学の基礎を取り入れ、応用分野についても学べるようになります。学科新設と関連して、現在、新しい二つの建物を建設中です。

理工学部のもう一つの大きな話題は、“連携”です。昨年4月にSPring-8と連携し、6名の客員教授を迎えました。その中にはOBの水木先生や、西畑先生も含まれています。世界一のSPring-8の施設を使った教育研究が始まっています。また、企業18社と協力して関学がリーダーとなり、新しいビームラインを建設することも決まりました。兵庫医大との連携も間もなく具体化します。国際連携という点では、本年度から吉林大学の生命科学分野との連携がスタートしました。最後に嬉しいビッグニュースとして、理学部OBの中井直正先生（筑波大学教授）の学士院賞受賞があります。これはまさに理学部の素晴らしい教育の成果の一つといえるでしょう。間もなく、理工学部は創立50周年を迎えます。益々発展する理工学部を今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

Contents

- P1 同窓の活躍
理工学部の現状報告
- P2 「空の翼」、わが母校
- P3 開発途上国の理科教育
- P4 2008年度総会案内他